

当事者つなぐ場各地に

声なきSOS

福井のヤングケアラー



⑤

今年5月、石川県の民間支援団体「ヤングケアラープロジェクトいしかわ」のSNS(交流サイト)にメッセージが届いた。「みなさんの活動に興味がある。話を聞かせてください」。送り主は石川に住む男子学生。小さい頃から母親のケアを担う当事者だった。

団体は市民有志が4月に立ち上げ、同月下旬に支援の拡充を考えたシンポジウムを開催したばかり。メンバーが話を聞くと、学生はケアを巡る悩みを家族以外に相談したことがないと明かした。「悩みを打ち明けるのは家族の否定になるのでは」とため息をつく人も。田

体発起人の一人で北陸学院大講師松本理沙さん(36)は話す。自身も重度障害のある3歳下の弟を幼少期から世話してきた。

連絡を寄せた学生は、団体が9月中旬に初めて開いた当事者の集まり「ケアラーカフェ」を訪れた。他にも同世代の参加があり、悩みや現状を打ち明けた。「同じ境遇の人と会うのは初めて」と参加者たち。予定の2時間では話し足りない様子で、別会場に移り交流を続けた。団体代表で元大学教授の五十嵐峰子さんはプロジェクトの意義について「ゆるゆるでも長くつなぐてい存在でありたい。当事者が困ったとき、悩んだ



当面の活動内容を話し合う「ヤングケアラープロジェクトいしかわ」のメンバー＝金沢市役所

とき、いつでもアクセスできるように」。

■ ■ ■
 国は2022〜24年度をヤングケアラーの認知度を高める「集中取組期間」と位置付け、先進的事業を行う自治体に費用を補助する。福井県はこの制度を活用して8月末から、当事者が集うオンラインサロンを始めた。初回は中高生ら5人の参加があり、元ヤングケアラーという社会人は「当時もこんな場があれば

よかった」と、孤独だった過去を振り返った。県による支援の取り組みが本格的に始動した。

全国では北海道や埼玉県、一部の市町が「ケアラー支援条例」を施行。行政の責務を明確にし、推進計画の策定を義務付けるなどしている。神奈川や群馬県高崎市は中高生ら向けに、家事代行のスタッフを無料派遣する事業を始めた。

日本ケアラー連盟理事の中村健治さん(北海道社協)は言う。「周囲の大人が小さなSOSにどう気付くか。ヤングケアラーは身近にいる。その意識を持つことが支援の第一歩だ」

(富崎翔央) おわり

感想をお寄せください

この連載に関する意見や体験談をメールでお寄せください。プライバシーに配慮した上で、紙面などで紹介する場合があります。宛先は福井新聞社報道部「声なきSOS」取材班 (houdou@fukushimbun.co.jp)

悩みを共有 福井でも